

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◆
病虫害発生予察注意報第 2 号

作物名 水稻（早生）
病虫害名 斑点米カメムシ類

- 1 発生地域 府内全域
- 2 加害時期 出穂後収穫期まで
- 3 発生量 平年比やや多い
- 4 防除時期 穂揃期及び傾穂期
- 5 注意報発令の根拠

- (1) 6月中旬に行った畦畔雑草すくい取り調査の結果、府内全域の確認箇所率は37.9%（平年比やや少）、平均虫数は3.0頭（平年並）であったが、丹後地域での発生は平年比やや多かった（確認箇所率：44.4%、平均虫数：3.8頭）（表1）。主要な発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ（図1）、アカスジカスミカメ（図2）、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシであった。特にアカスジカスミカメが多く捕獲された。今後、これらのカメムシ類が出穂後水田に侵入することが懸念される。
- (2) 6月中旬に行った水田内のすくい取り調査の結果、府内全域の確認ほ場率は3.4%（平年並）、平均虫数は0.03頭（平年並）であったが、丹後地域での発生は平年比やや多かった（確認ほ場率：11.1%、平均虫数：0.1頭）（表2）。主要な発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメであった。
- (3) アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯への誘殺数（5月第6～6月第3半旬までの合計値）は、京田辺市で0.0頭（平年：5.1頭）と平年並、亀岡市で10.0頭（平年：5.0頭）、京丹後市で16.0頭（平年：9.4頭）と平年比やや多かった。アカスジカスミカメの予察灯への誘殺数（同上）は、京田辺市で0.0頭（平年：0.2頭）と平年並、亀岡市で20.0頭（平年：5.4頭）と平年比多く、京丹後市で6.0頭（平年：14.2頭）と平年比やや少なかった。



図1 アカヒゲホソミドリカスミカメ



図2 アカスジカスミカメ

年度	山城		南丹		中丹		丹後		府全体	
	確認箇所率	虫数	確認箇所率	虫数	確認箇所率	虫数	確認箇所率	虫数	確認箇所率	虫数
27年	60.0	8.4	22.2	0.8	33.3	1.2	44.4	3.8	37.9	3.0
平年	50.1	10.6	41.0	1.6	40.0	3.9	53.3	2.6	46.2	4.1
26年	80.0	4.0	44.4	2.3	50.0	11.2	66.7	4.8	58.6	5.0
25年	83.3	78.2	88.9	3.0	66.7	4.7	88.9	2.9	83.3	18.3
24年	66.7	4.8	22.2	0.3	50.0	2.7	55.6	3.0	46.7	2.5
23年	33.3	1.5	44.4	2.0	33.3	4.7	44.4	6.4	40.0	3.8
22年	33.3	1.5	33.3	1.0	50.0	4.0	44.4	0.6	40.0	1.6

年度	山城		南丹		中丹		丹後		府全体	
	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数
27年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.1	3.4	0.03
平年	5.1	0.1	4.3	0.08	8.1	0.2	6.7	0.14	5.9	0.14
26年	20.0	0.2	11.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	0.1
25年	16.7	0.5	11.1	0.3	16.7	0.7	55.6	1.3	26.7	0.8
24年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
23年	0.0	0.0	11.1	0.1	0.0	0.0	11.1	0.1	6.7	0.1
22年	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.7	0.0	0.0	3.3	0.1

6 防除上の留意事項

(1) 耕種的防除

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にする。したがって、水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには、**畦畔の草刈りを行うことが有効である**。草刈りは、イネが**出穂する2～3週間前と出穂直前の2回行うと効果的**である。作業の都合上、**1回で済ませる場合は、必ず出穂の10日前までに草刈りを済ませる**。出穂期に近づきすぎてから行くと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となる。

水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草する。

(2) 農薬による防除

カメムシ類の密度が高い水田では、**薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うこと**が望ましい。使用農薬は、表3を参照のこと。

農薬の散布に当たっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。

農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用基準を遵守して適正に使用する。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>）。

(3) ミナミアオカメムシの発生に注意

平成22年に、府内で初めてミナミアオカメムシ（図3及び4）の発生を確認した。

平成26年までに山城地域と丹波地域の一部で本種の発生を認めている。本種は、他の斑点米カメムシ類に比べて体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなるので発生に注意する。



図3 ミナミアオカメムシ成虫



図4 ミナミアオカメムシ幼虫

<参考：カメムシ類に登録のある農薬>

薬剤名	10a当たり使用量	使用時期	使用回数
アルバリンノスタークル粒剤	3kg	収穫7日前	3回以内
アルバリンノスタークル顆粒水溶剤	2000倍(60～150L)		
アルバリンノスタークル粉剤DL	3kg		
エルサン乳剤	1000倍(60～150L)	" 7日前	2回以内
エルサン粉剤3DL	3kg		
エルサンバッサ粉剤20DL	3～4kg		
キラップフロアブル	1000～2000倍(60～200L)	" 14日前	2回以内
キラップ粒剤	3kg		
キラップ微粒剤F	3～4kg		
キラップジョーカーフロアブル	1000倍(60～200L)		
キラップジョーカー粉剤DL	3～4kg		
スミチオン乳剤	1000倍(60～150L)	" 21日前	2回以内
スミチオン粉剤3DL	3～4kg		2回以内(出穂前は1回まで)
スミバッサ粉剤20DL	3～4kg	" 21日前	2回以内(出穂前は1回まで)
ダントツ粒剤	3～4kg	" 7日前	3回以内
ダントツ水溶剤	4000倍(60～150L)		
ダントツ粉剤DL	3～4kg		
チェス水和剤	2000倍(100～150L)	" 14日前	2回以内
トレボン乳剤	2000倍(60～150L)	" 21日前	3回以内
トレボン粉剤DL	3～4kg	" 7日前	
ベストガード粒剤	4kg	" 14日前	4回以内
ベストガード粉剤DL	4kg		
マラバッサ粉剤DL	3～4kg	" 7日前	5回以内
MRジョーカー粉剤DL	3～4kg	" 7日前	2回以内
MRジョーカーEW	2000倍(60～150L)	" 14日前	

※ 最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。